

# 歯がなくなるのは 当たり前？



野中宏美  
(OPひるま歯科 矯正歯科歯科衛生士)

栃木県生まれ。  
中学生の頃から将来は資格を取得して働きたいと考えていました。むし歯の治療で何度も歯科にかかるうち、歯科に興味を持ちはじめ、歯科衛生士になりました。

▶最近ハマっていること…健康や体力づくりのためホットヨガやボルダリング、登山をしています。

## 成人の方を担当して感じることに

私は20歳以上の方を対象とした成人診療を担当しています。来院される方は健康に対する意識の高い方が多いように感じます。健康管理のためにメインテナンスを希望されるのですが、そんな方々でも初診時は「高齢になったら歯を失うのは当たり前」と思っていたようです。

## 子どもの歯を守りたい！

母の思い……

私の母は57歳ですが、子どもの頃から何度も歯科治療を受け、現在上の歯はほぼ総入れ歯、下の歯もいつ入れ歯になってもおかしくない状態です。母は私たち姉妹が自分のようにならないようにと、むし歯ができれば一生懸命、歯科医院に治療に通わせました。「子どもたちの歯を守る」歯医者さんで治療をする」と母は信じていたのです。このように考えるお母さんは多いと思います。しかし、結果的に私歯は、治療をしていない健康な歯の方が少なくなってしまうました。

以前、私の勤務する医院に通院していた母の抜歯のアシスタントにしていたときは、料理をすることも食べることも大好きで、家族みんなで食事をするこの大切さを教えてくれた母がなぜこんなことになってしまったのだらうと悲しくて涙が止まりませんでした。なぜまじめに歯科にかかってきた母が再び治療を何度も繰り返すし、どんどん歯を失ってしまうのか。とても悔しい気持ちでいっぱいでした。

## 家族みんなで歯を守る

歯を守る



そんな経験をしてきた私が熊谷先生のオーラルフィジシャンの考え方を知ったのはその後のことです。生涯にわたって自分の歯で食事ができることこそが母が私たちに教えたかったことなんだと今ではよくわかります。健康を守ることは自分ひとりではできません。家族みんなが

口の中はもちろん、体中が元気で健康なのがいいよね！という同じ価値観をもつことも重要なことです。OPひるま歯科矯正歯科では歯が生えたころ(生後6カ月くらい)からメインテナンスを行っています。子どもの頃から家族みんなで正しい知識を持ち、上手に歯科医院を活用してもらえればいいなと思います。

## 私たちの取り組み

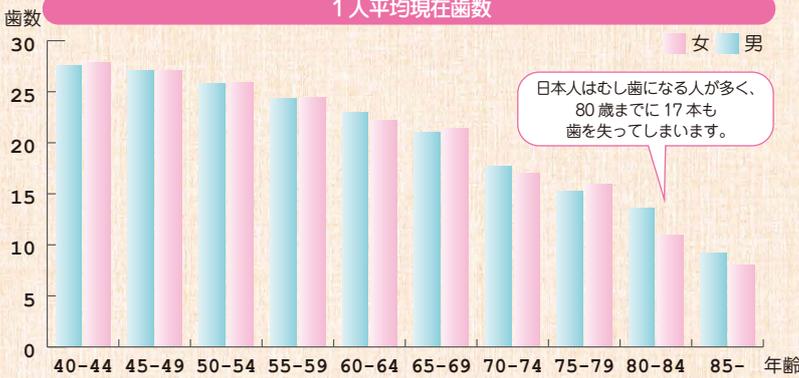
今年から当院の診療部が「未来創造診療部(ツクル)」と「過去修復加齢対応診療部(ミナオス)」に分かれ、診療を行っています。

いつか、歯科医院でメインテナンスを受けることが当たり前で、「子どもたちの歯を守る」歯医者さんで治療をする」という歯科の実態が昔話になれればいいな、むし歯や歯周病がなくなりたくてもなれない、稀な病気になればいいなと思います。そのため、私たちは歯の大切さやメインテナンスの重要性を伝え続けていきます。

## 正しい知識を次の世代へ……

実家に帰るたびに、更に歯を失っていく不安を抱えている母の話聞きながら、私たちにできることは何か、まだまだ必要な知識があるんじゃないかと考えています。歯を生涯にわたって守るための正しい知識を多くの人に持ってもらうためにできることをやっていきたいと強く思い、私たちには次の世代につなげる責任があると感じています。

1人平均現在歯数



厚生労働省 平成23年歯科疾患実態調査より